

令和元年 12月 29日

南の風 2019 ウィンターカップ 特集号 II

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

2019 ウィンターカップの結果です。男子の決勝は福岡県対決となり、福岡第一高校が福岡大学附属大濠高校を75対68で下し、大会2連覇を果たしました。女子は、終盤大接戦となりましたが、桜花学園高校が72対67で岐阜女子高校を退け3年ぶりの優勝を遂げました。男女とも高校総体（インターハイ）に続き、今年度2冠に輝きました。同校及び関係者の皆さんおめでとうございます。

前号ウィンターカップ特集号の続きです。

男子のゲーム（ベスト16～8）から感じたことです。1on1の攻めですが、個人技やチーム力に差があればやや強引にペイントに切り込んで行っても、得点できるかファウルをもらえます。ギャロップステップでかわしたり、ターンアラウンドで攻めたりできるのですが、強豪校と当たる確率の高いベスト16以上では、対戦相手のディフェンス力が違ってきます。今大会でもスピードに任せてペイントに進出し、ヘルプサイドのディフェンスにつかまりトラベリングになったり、チェック（ポインティング）されボールを失ったりする場面が数多く見られました。

私の考えです。果敢に1on1を仕掛けることはバスケットボールの基本です。コンタクトを嫌がらずにペイントを攻めることは『基本の基』です。ミニバスの時代からしっかり身につけるべきスキルです。

しかし、『視る』ということも大切な技術なのです。1on1で攻める場合、ヘルプサイドを視てプレーすることを忘れてはいけませんのです。自分のマークマンは身体感じながら、視線はヘルプサイドのディフェンスに向けるべきです。指導者の中には、「リングを見てプレーしなさい」と言われる方もいますが、時と場合です。1on1で攻める時は必ずヘルプサイドを視る習慣をつけたいものです。ヘルプサイドを視ることによって、サドンストップしてシュートするか、リトリートしてスペースをつくるか、あるいはパスをさばくかを判断するのです。自分のパフォーマンスだけに固執して攻めることは自滅につながります。

次にピック&ロールについてです。これは男女について言えることです。

まずスクリーンの掛け方です。高校以上では、現在スクリーンのディフェンスがコンテインの場合は、スクリーナーはボールマンディフェンスに対して、斜め後方からセットすることが主流です。ハードショウの場合は、真横にセットします。（今回、詳しくは触れません）

考え方はいろいろですが私は、ミニバスや中学ではスクリーナーのセットは、ボールマンディフェンスに直角にかけることをお奨めします。ファイトオーバーへの対応やアフタープレーを考えた場合ベターだと考えるからです。

今大会を観るとスクリーンのかけ方が中途半端で、簡単に対応されてしまったり、スクリーンからのアフタープレーに行かなかったりする場面が多々ありました。マンツーマンにはスクリーンプレーは極めて有効な戦術です。正しくかけることとプレーの連続性をぜひ心がけてほしいと思います。さらに言えば、ディフェンスの対応の仕方によって、リジェクト、スリップも取り入れてもらいたいと思います。

スクリーンプレーは合理的なプレーです。判断力を養うにはうってつけです。ミニバス時代から挑戦してほしいプレーです。

それでは皆さん、どうぞよいお年をお迎えください！！